

## モンゴル国における血液細胞形態判定者(医師・臨床検査技師)の人材育成

### ● 背景

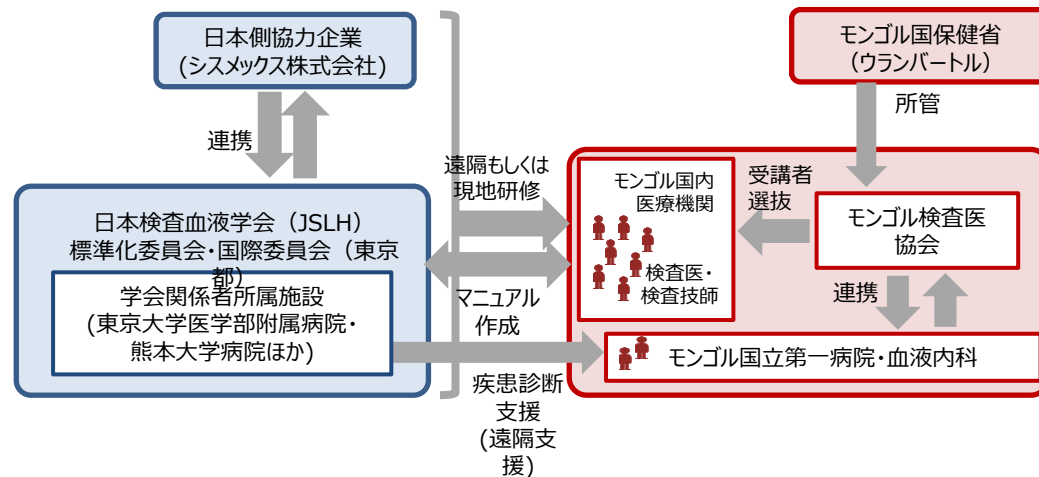
モンゴル国においては、近年、同国において自家造血幹細胞移植が開始されるなど、造血器腫瘍の診断・治療を自国内で完結させようとする動きが加速しつつある。しかしながら、造血器腫瘍を的確に診断できる人材の確保が大きな課題となっており、これが白血病を含む造血器腫瘍の診断数が増加しない原因であると認識されている。専門職の需要は首都だけでなく広大な国内の随所にあるが、人材の育成が追いついていない状況が続いている。また、これまで造血器腫瘍の診断に関する十分な教育指導が行われてこなかったという背景もある。こうしたなか、日本検査血液学会では2019年度より血液細胞形態診断に関する研修事業に取り組み、成果を上げてきた。相手国からの要望を受け、2021年度においても本事業を継続し、相手国の更なる技術向上と、日本の機器・試薬類の導入に向けた支援事業を展開するものである。

### ● 事業概要

本事業は、日本検査血液学会がモンゴル検査医協会と協定を締結のうえ、モンゴル検査医協会および国立第一病院血液内科からの推薦にて選抜された医師(臨床検査医・血液内科医)・検査技師(年度あたり合計20名)に対して、モンゴル国と日本間の相互訪問研修により血液細胞形態を診断する人材の育成を図る。また、両国関係者の連携により、造血器腫瘍の細胞形態診断に関するマニュアルを作成し、モンゴル国内で出版することにより、広く相手国内の診断能力を向上させる。加えて、日本国内の血液検査機器・試薬関連企業とのコラボレーションにおいて、国内の機器・試薬類の導入推進、および適切な機器管理等の技術を提供する。

### ● 期待される成果

日本検査血液学会に所属の医師・検査技師が、モンゴル検査医協会および国立第一病院血液内科からの推薦にて選抜された医師・検査技師に対し、血液細胞形態判定と標本作成に関する研修会を年2回実施する。合計20名の血液細胞形態検査を実施できる医療従事者を育成し、1年以内に、研修受講者の所属施設において塗抹標本作製を用いた診断が実施できる体制となったことを確認する。また、検査医協会を介して相手国の医療機関に配布するマニュアルの第二版を発行する。これらにより、2年以内に国立第一病院血液内科への紹介患者数を有意に増加させ、もって造血器腫瘍診断数の向上に寄与する。



### ＜研修スケジュール案(2021年度)＞

2021年	
5月	モンゴル臨床検査医協会との打ち合わせ (ウェビナー)
5月	マニュアル作成の打ち合わせ開始
6月	過年度研修受講者からの聞き取り調査開始
9月	第一回・動画による研修会(日本側10名・研修生10名) (オンライン配信及びリアルタイム研修)
2022年	
1月	第二回・動画による研修会(日本側10名・研修生10名) (オンライン配信及びリアルタイム研修) (可能な場合は渡航して研修会開催)
1月	マニュアル作成完了・配布